

第 18 回植物病原菌類談話会

日時：平成 30 年 3 月 27 日（火）（大会最終日）

日本植物病理学会大会の閉会式終了 30 分後開始～20:30（予定）

場所：神戸国際会議（平成 30 年度日本植物病理学会 大会第 2 会場）

分子系統の基礎から現場での利用まで

－（小さな声でいいますけど）その使い方は間違っています－

植物病理学会では病原菌の分子系統に基づくデータは分類、同定、診断、検出、病原性などの様々な場面で活用され、多くの研究成果が報告されています。現場でも分子データの解析が必要となり、且つその背景となる技術や手法の理解が重要となってきました。今回は、もはや我々にとって不可欠になった分子データを用いた研究の理解を深めるために、DNA やタンパク質の配列データから分子進化や系統関係を推定するソフトウェア—MEGA の使い方や結果の評価方法について基礎を学び、この手法を用いた植物病原菌 *Pestalotiopsis* 関連属菌の分類・同定に関する最新の知見、さらには、現場での応用として、分子データを用いた診断の具体例をご紹介します。また、2017 年 7 月、中華人民共和国深圳で行われた菌類の命名規約の条文改正に関わる内容を解説して頂きます。

講演内容：

1. 「MEGA を用いた分子系統樹作成の基礎と応用」

首都大学東京 理工学研究科 生命科学専攻 瀬戸 陽介

2. 「現在の広義 *Pestalotiopsis* 属菌の分類による種同定の限界」

玉川大学 農学研究科 資源生物学専攻博士課程後期 野澤 俊介

3. 「植物病害診断における分子データの活用法—分子データとハサミは使いよう！？」

佐賀大学 農学部 応用生物科学科 草場 基章

話題提供：

「新しい国際藻類・菌類・植物命名規約（ICNafp; (ICNafp; 深圳規約 2018) の改正点について～菌類学名は予定どおり統合されます」

農業・食品産業技術総合研究機構遺伝資源センター 青木 孝之

参加費：500 円（会場費及び資料印刷費）。当日、会場にてお支払い下さい。

問い合わせ先：植物病原菌類談話会 第 18 回コーディネーター

神戸大学大学院農学研究科 植物病理学研究室 中馬 いづみ

東京農業大学 国際農業開発学科 本橋 慶一

TEL：03-5477-5956 E-mail：k3motoha@nodai.ac.jp

（同談話会代表幹事）玉川大学 渡辺 京子

E-mail：wkyoko@agr.tamagawa.ac.jp